

特集

花輪高校閉校に寄せて

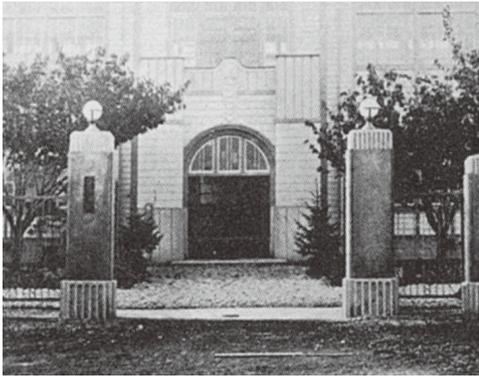
旧校舎で過ごした思い出

鹿角市議会議長

中山 一男(二期)



私は、昭和四十一年四月入学、四十四年三月卒業の二十一期生です。当時の校舎跡地には「あんたらあ」が建っていますので、私の学んだ校舎は心の中しかありません。入学時に思いを馳せると、北側校門の左右には二本の大きな枝垂れ桜、正面はゴシック風の職員玄関・校舎と大きな桜の木があり、歴史を刻んだ重みと風格の漂った木造校舎が、母校の気に入った風景でした。入学当時の校長は山城誠司氏でしたが亡くなられ、中川敏郎氏から卒業証書をいただきました。



た。授業中は、部活で疲れているんだらうと理解していただき、寝ていても早弁しても怒られず、良き時代であったかもしれませぬ。校舎西側には道場(第二体育館)があり、主に剣道部・柔道部が使用していました。中庭にはテニスコート、南側には体育館があり、男子バスケット部(東北大会出場)、バレー部(県大会準優勝)、今では珍しい女子器械体操部が練習していました。狭い中でしたが活気に満ちていたと記憶しています。

同じ南側のグラウンドでは、百Mのコースがやとと取れるような場所を主に陸上部が使用し、強い選手も多く輩出していました。さて、私の所属する野球部はというと、学校に野球場が無く、春木沢(尾去沢鉦山貯水池の一角)まで練習に行き、想像を絶するような練習環境でした。二年生の時にやとと今の場所に新校舎建設が始まり、校舎以外は未整備でも使用可能であったため、現在の陸上トラック、そして三年生の時には今の野球場のマウンドを、リヤカーや一輪車を駆使しながら自分たちの手で二回も整備した思い出があります。このように、野球環境は大変厳しいものでしたが、三年目にして夏の県大会三回戦まで進み、目標の一回戦を突破することができました。今の自分の礎を高校三年間の野球生活で培ったと強く思っていますし、八橋球場の「二勝」が一番の思い出です。

高校三年間、校舎建築の寄付はしましたが、一度も校舎に入れずに心残りといえは心残りです。私の思い出の校舎はもうありませんが、私の母校は「秋田県立花輪高等学校」です。新年度からの「鹿角高校」のご発展を心からご祈念申し上げます。

前校舎で過ごした思い出

(南安心サービス(アド・ワークス)代表取締役)

安保 朗(二期)



最初の話をいただいた時に、明らかに人選を間違えたのでは?と思いましたが、まあ、これで最後という事ですので、恥ずかしながら忌憚なく書かせていただきます。

私は高校時代、子供達の手本になるような人物像とは程遠く、不良まではいかなくともいわゆる「やんちゃ」な学校生活を過ごしていました。なので、前校舎での思い出はそれらにまつわる事が多く、例えば廊下にあった水飲み場は、手洗いや水を飲むのではなく、当時流行っていたパンクロックの影響でツンツンに立てていた髪を先生に洗われた思い出の場所



ります、学食に併設してあったセミナーハウスは部活動の合宿で利用し、皆と一緒に泊まる楽しさが高じて夜は麻雀や花札をやりすぎで寝不足になりました。今頃私に執筆依頼をした方は苦虫を噛み潰したようなお顔になっているかもしれませんが、そんな高校生活を過ごしても今なんとかそれなりに人として親として生きておりますので、人生なんとかなるもんだと(笑)、とにかく久々に懐かしい思い出を掘り起こせた事に感謝しています。ありがとうございました。

現校舎で過ごした思い出

鹿角市役所健康福祉部 福祉総務課保護班 主事

兎澤紗希子(二六期)



花輪高校で過ごした三年間、たくさんの思い出がありますが、やはり陸上部として活動した時間が私にとってなによりも大切な思い出です。

花輪高校に入学し、迷いなく陸上部に入部することを決めました。が、八十人以上いる部員数に驚き、三年間やり切れるだろうかと少し不安な気持ちにもなりました。一年生の初めての大会。憧れていた先輩とリレー競技に出場できた時、花輪高校の陸上部の一員としてユニフォームを着て出場できたことを誇りに思いました。

私は三年間で目立った結果は残すことができませんでしたが、日々の厳しい練習をみんまで励ましあいながら乗り越え、引退す

であったり、その近くにあった牛乳パックの自動販売機は叩いたり蹴ったりするともう一個出てくるという噂があったりボコボコにつぶれていたり(私は蹴っていませんが)そのような事ばかり思い出されます。すみません。他にも、購買は昼休みに行くのではなく、十時頃の開店と同時に目当てのパンを買いに行き、もちろんお昼になる前になぜかお腹の中に収まっていたり、その後学食に行つてうどんを食べたり、それから、しっかりと弁当も食べていたという思い出もあります。それ以外の場所ですと、仮眠するつもりがうっかり寝過ごして放課後になってしまった体育館の用具室や、三年の時に出席日数が足りなくて冬休みに毎日掃除に行かされていた鬼の棲む体育教官室、先輩方から肉体的に猛烈な愛の指導を受けた部室や体育館裏等々、よくもまあ三十年以上経っているのに色々出てきます。



るまでやり遂げたことで、心身ともに大きく成長することができたとおもいます。また、目標に向かつて努力することの大切さやチームワークの重要性を部活動を通して学ぶことができました。

部活動以外にも、花高祭や運動会、修学旅行など友人と過ごした時間もとても充実しており、楽しかった思い出がたくさんあります。受験に向けて毎日必死に勉強し、辛かった時期もありましたが、友人や先生に支えられ目標としていた進路にも進むことができた。何度も進路相談をし、指導していただいた先生にはとても感謝しています。

高校時代は勉強や部活動に励む中で、努力したことが実を結ぶ喜びや、自分の力で様々なことを乗り越える力を身につけることができた。

きました。様々な経験や思い出が社会人となった今、多くの場面で役立っていると感じています。友人や先生方にも恵まれて私は花輪高校に入学して本当に良かったと思っています。これからもたくさん思い出を忘れることなく、大切にしていきたいと思えます。



花輪高校の思い出

高木英子先生 (八十八歳)



母校の花輪高校は本年度で閉校し、新年度からは花輪、十和田、小坂の三高校が合併した「秋田県立鹿角高校」が誕生します。そこで最後の同窓会報に、長らく花輪高で教鞭をとられた高木英子先生に花輪高の思い出などをうかがった記事を掲載することにしました。

した。先生は夫の豊平氏（豊平氏も花輪高に勤務された）とともに今年で八十八歳の米寿を迎えられました。

鹿角市が誕生した昭和四十七年（一九七二）四月に三十七歳で花輪高に赴任。以来、六十三年（一九八九）三月まで十七年間連続で花輪高の教壇に。その間、学級担任や学年主任、進学の進路指導などを担当。教科は世界史、日本史。

「赴任当初は女性の教諭は普通科の学級担任になれませんでした。二年目に担任になりました。担任になれなかったのは男子生徒に対する学校側の配慮だと思われのですが、正直言って『時代遅れ』という違和感はありません。でも生徒は総じて素直で頑張り屋。その反面、警察にやっかいになるいたずらっ子もいてね。でも、今から思えば手を焼いた子ほど立派になっていきますね。そうした教え子の成長した姿を見るのが嬉しく楽しいです」

その頃の花輪高の伝統で、男子は運動部に入らなければならぬという風潮があったという。「スキー部や陸上部の黄金時代。とにかく強かった。先生もその二つの部の顧問は特別扱いでした。文化部では何と言っても吹奏楽部。佐藤修一先生が顧問の時代で、全国大会で金賞をとって当たり前。先生や部員たちもそりゃ必死でしたね。進学では共通一次が導入された頃で、鳳鳴と比較しても花輪の方がよい大学に入れたりしてね。学校の序列で考えてはいけない、子どもは環境が育てるということを学びました」

部活の顧問は十七年間一貫して新聞部。部員は三十人余りで、女子が多かったという。新聞は年五回の発行、何かあれば号外も発行した。

「三年生は夏休みで引退するのですが、その時に下級生に仕込みの合宿をしました。学校に泊り込んだのですが、三年生が自炊や掃除などを担当し、後輩たちには新聞づくりなどの勉強を一生懸命させました。それが新聞部の伝統で、そんな中から素晴らしい生徒や新聞が生まれました。先日、家を掃除していたら当時の新聞がごっそりと出て来てね、学校に問い合わせたら欲しいというので寄贈しました。学校の歴史を語る貴重な資料ですからね」

現在は鹿角市先人顕彰館の研究員、内藤湖南先生顕彰会の副会長などを務めている。故郷の先人の足跡や業績を調査・研究しており、各種研修会の講師やテレビ等出演するなど多忙な日々を送っている。

八十八歳の現在も健康そのもので、記憶力も確かなもの。背筋のピンと伸ばした姿勢が印象的だ。「私は栄養とか薬には音痴。この年齢になるまで、病院は歯医者や皮膚科しか知りませんが、特に健康に気を付けているという訳ではありません。食べたい時に食べたい時には寝る。つまり体の求めるまま自然体で暮らしているだけ。それが私の最大で唯一の健康法というならそうかもしれない」

鹿角市十和田大湯在住。 文責・北村正人（二三期）



吉村アイ (二九期)

五十五年前、卒業の翌年に花輪高同窓会の総会に参加し、大先輩の方々とどんな話をしたか記憶にないが、それが同窓会と関わるスタートとなった。

私は花輪に生まれ、花輪小学校、花輪第一中学校、花輪高校を経て花輪電報電話局に就職し、花輪で暮らしている。花輪町は合併して鹿角市となり、陸中花輪駅は鹿角花輪駅となり、花輪電報電話局は鹿角電報電話局となった。

そして、花輪高校は来年度月に鹿角高校となり、九十年慣れ親しんだ花輪の名称がまた一つなくなる。いつの時代もその流れとともに名称が変わり、人の記憶も薄らいでいくと思われ、花輪高校の歴史と文化は末永く受け継がれ、継続していくと思っている。

総会開催のご案内

日時: 令和6年5月17日(金)

18:00~総会 / 19:00~懇親会

場所: ホテル茅茹荘

金曜日開催としました。

その時期になりましたら、案内をホームページ等に載せますので、お問い合わせの上ご参加ください。

事務局だより

今年の五月十九日に開催された花輪高校同窓会総会で、今後の同窓会について重要な決定がなされました。

一、同窓会役員について

現在の役員（常任幹事を含む）を令和十一年三月三十一日まで留任とする。欠員が生じても特に補充しない。

二、鹿角高校同窓会との関わりについて

鹿角高校同窓会を支援する方向で、小坂・十和田の両同窓会と協議をしていく。

三、統合後の花輪高校同窓会について

統合後の五年間の活動は本部・各支部の判断に委ねる。それ以降の同窓会の在り方については、この五年間で検討する。

母校がなくなり、来年三月の卒業生が最後の同窓生になります。今まで通りの活動を続けていくことは、資金的に無理であることがはつきりしていますので、今後どの程度の活動ができるかをこの五年間で実証していくこととなります。新入会員からの入金もなくなり、皆さんからの会費のみが収入となります。今後も会費を納入して下さいようお願い致します。

今年度は、従来の活動の他に閉

校事業があり、役員も忙しい年でしたが、閉校式も無事終了して安堵しています。学校が無くなって同窓生がいなくなるわけではありませんので、今後も同窓会を支援して下さいよろしくお願致します。

令和五年度総会開催

五月十九日ホテル茅茹荘において、令和五年度の総会が開かれました。昨年度の事業・決算報告及び今年度の事業・予算計画が承認されるとともに、来年度からの同窓会の在り方について、協議がなされました。（詳細は上記）終了後は懇親会で、二年ぶりの親睦を深めました。



総会の様子

陸上部と美業部に激励金贈呈

去る七月二十四日、インターハイ陸上競技に出場する児玉政大君と兎澤愛望さん、それから全国高校ワープロ競技大会に出場する小原優叶君（いずれも三年生）に激励金を贈呈しました。花輪高校最後の年に全国大会に出場してくれて本当にうれしく思っています。



激励の様子



令和4年度 同窓会決算書

Table with 6 columns: Item, Budget, Actual, Change, Description, Previous Year. Includes sub-sections for Income and Expenses.

Summary table for 2022 fiscal year: Total Income 1,944,181, Total Expenses 1,127,340, Balance 816,841.

令和5年度 同窓会予算書

Table with 6 columns: Item, Budget, Previous Year, Change, Description, Previous Year. Includes sub-sections for Income and Expenses.

Summary table for 2023 fiscal year: Total Income 2,933,890, Total Expenses 2,933,890, Balance 0.

Summary table for 2023 fiscal year including previous year's balance: Total Income 400,235, Total Expenses 300,116, Balance 100,119.

花輪高校同窓会 令和四年度決算書、令和五年度予算書